上の様に50年以上も海藻の研究に終始し多くの輝かしい貢献をされた博士を失つた事は世界の藻学会にとつてその損失はかり得ざるものがあり誠に痛惜にたえず，此処に謹しでその冥福を祈る次第である。

尚同博士所藏の海藻に関する図書，論文別刷等は遺族より一括して研究所，大学等適当な機関に譲渡の希望の由である（価3000米弗）。

(北海道大学理学部植物学教室)

新著紹介

海藻圖鑑二題

戦後，採集した海藻の名をしらべるのに手頃な原色図鑑がなく非常に不便を感じていた。本年になつて相次いで二つの何れも優秀な図鑑が発行され，比較的安価に手に入る様になつたことは，海藻に関係する者として非常に有難いことと思つている。

岡田喜一著

原色日本海藻図鑑

昭和9年に三省堂から発行された同じ著者の「原色海藻図譜」は戦前採集者必携の書として定評があつたが，戦後絶版となり手に入れにくくなつていた。今回風間書房から，同じ図版を複製し，説明を多少改めたものが上の書名で発行された。海藻約370種の大きな美しい原色図に簡潔な説明がつけられていて，巻頭と巻末に海藻の種類・利用・分布，採集法と標本製作法がわかり易く解説されている。採集の時の良い手引であり，図が大きく鮮明で，特に初心者にとつては採集品を図とひきくらべて名をしらべるのに好適である。(風間書房発行，1,000円)

瀬川宗吉著

原色日本海藻図鑑

約590種の海藻の2/3大の原色図とその解説に加えて，これだけでは種の固定が困難なものについては必要な外形又は内部構造の図解が添えてあるのは親切である。解説の間に属・種の検索表も入つている。巻末に海藻の分布・生活様式・採集の方法と注意・採集物の処理と輸送・標本の製作法と整理法及び種の同定法が25頁にわたつて記述され，分類に関

する文献も7頁にわたつてあげられている。原色図がやや小さいが，内容の豊富なことはこれを補つてあまりがある。初心者が採集品の名をしらべるのにも好適であるが，更に進んで海藻の研究に進む人に，又採集を指導する方々にはこの上ない良い手引きであろう。(保育社発行，1,200円)

(東海区水産研究所　須藤俊造)

学 会 録 事

日本藻類学会第4回総会記事

本会第4回総会は恒例に依り日本植物学会大会が札幌市北海道大学で開かれたのを機会に，去る7月12日午後3時より同大学附属植物園前の水産会館で開催された。出席会員は41名で，その他に水産業者代表が数名出席し盛会であつた。次に当日の模様を総会次第に従つて報告をする。

開会挨拶：　中 村 幹 事

会長挨拶：　山 田 会 長

(要 旨)　本会発会以来3年を閲し，現在会員も265名を数えていよいよ会の基礎も充実したので今後とも我が国藻類学の発展のため努力したい。

一方，国際藻類学会設立の機運もあり，米国加州大学パーペンフス教授よりの照会に対しては，本会々員中より入会希望者が33名あつたので，この旨を返事したがその後の動向は不明である。

議長選出：　恒例により地元より時田郁氏を選出した。

庶務会計報告：　さきに本誌第4巻第1号に同封した30年度報告の通りに川嶋幹事(庶務)及び舟橋幹事(会計)より報告と質疑に対する応答があつた。

議　　事：　議題は提出されなかつたが雑誌「藻類」の編輯を中心に活潑な質疑応答が行われた。その要旨とするところは「藻類」の内容が原著論文偏重の傾向があつて藻学の一般的な普及の点に欠ける恐れがあるので会員全般に親しみやすい綜説，雑録等を出来るだけ多く掲載せよとの希望であり，これに対し会長より善処の約束と共に会員諸氏の御協力の要請があつた。

閉会挨拶：　中 村 幹 事

講　　演：　小憩の後田中剛氏の司会で講演に移つた。講師と演題は次の通りである。

(1)　沢村政成氏(道庁水産製品課)　戦前並びに戦後に於ける本道コンブ海藻類の生産消流状況

(2)　中村義輝氏(北大海藻研)　コンブ増殖上の諸問題

沢村氏は詳細なデーターを示され，又中村氏は室蘭海岸で行つた増殖試験の幻燈を使用されて道内に於けるコンブをはじめ有用藻類の生産状況や増殖問題に関して有益な解